

授業概要

財務諸表は、貸借対照表や損益計算書といった会計報告書の総称である。財務諸表論といった場合、一般に、制度の下で公表される財務諸表を対象とする。したがって、財務諸表が伝える内容は、財務諸表の利用者の関心に適ったものでなければならない。また、財務諸表が伝える内容は、企業の経済活動を記録したものであり、その記録内容を適切に表示しなければならない。そして、その内容は、一定のルールに従った記録や表示に基づくものである。したがって、財務諸表にかかわる法規や会計基準、具体的な経済活動とその会計処理について、ⅠとⅡに内容を分けて講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス 会計学の意義・役割と研究対象
第2回	企業会計の仕組み～技術的特徴
第3回	企業会計の仕組み～理論的特徴
第4回	企業会計原則（一般原則）
第5回	企業会計基準と概念フレームワーク
第6回	企業会計制度
第7回	資産会計～分類と評価基準
第8回	流動資産～当座資産
第9回	流動資産～棚卸資産
第10回	固定資産～有形固定資産
第11回	固定資産～無形固定資産 と繰延資産
第12回	負債会計～流動負債
第13回	負債会計～固定負債
第14回	資本会計
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 内容は目安であるため、内容が前後したり、複数回にわたることがある。

到達目標

- ・行われている会計処理の背景にある考え方を知ることができる。
- ・開示されている財務諸表の概略を理解できる。

履修上の注意

- ・公表する財務諸表を対象とした授業なので、簿記検定の範囲でいえば商業簿記2級以上の内容が含まれる。1年次から履修登録が可能である理由は、入学前から簿記会計にかかわる学習経験者がいるためであり、学習経験者以外は、初級簿記、中級簿記を履修した後の登録が望ましい。

予習・復習

- ・予習：テキストの下読み。
- ・復習：授業内容を文章でまとめられる準備。

評価方法

- ・平常点30%程度、定期試験（筆記）70%程度の配分を予定している。（平常点はほぼ毎回の授業中の提出物。）
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には、原則として、単位を認定しない。

テキスト

- ・教科書名：新版 現代会計学＜第3版＞
- ・著者名：新井清光・川村義則
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年（ISBN）：ISBN：978-4-502-34641-5

なお、頻繁に改訂されるので、最新版を用意すること。授業「財務諸表論Ⅱ」でも使用する。